

エコライフみしま

知っていますか？



市の鳥「カワセミ」



市の木「イチョウ」



市の花「三島桜」

未来へつなぐ 環境先進都市・三島
みんなで作って



第30号

2017/10/15

- 特集「環境と減災」・・・P2、P3
- 環境活動紹介(旧市内地区エコリーダーの環境活動)・・・P4

環境と減災

ごみ袋とリュックで
簡易的なバケツに

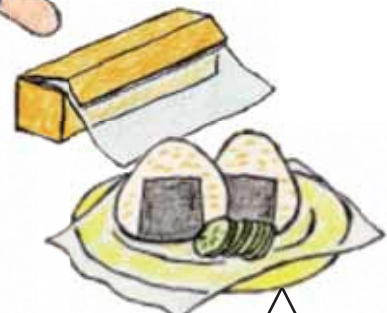


ラップを巻いて
包帯代わりに



ごみ袋を切って
簡易的な雨具に

災害時には
ごみ袋やラップ
が役立ちます！



ラップをお皿に敷いて
水の節約に

クイズ：電気もガスも使わず、太陽の光だけで水や食品を加熱する環境にやさしい調理器具は何でしょうか？

～答えはP3へ～

環境と減災

ライフライン停止時に備えて

災害時があると便利なものはなんでしょう？ここでは、あると便利なお役立ちグッズについて紹介します！

◎ラップ

- ・皿にラップを敷き、その上に食べ物のをせれば、水を使って皿を洗わないで済みます。
- ・新聞紙などを巻いた上からラップを巻けば、暖かい空気がこもります。
- ・傷口へ巻き付けて使用します。包帯の上から巻けば、水にも濡れることはありません。空気に触れることがないため、雑菌などの侵入を防ぎます。



ラップを三つ編みして作ったロープ

- ・長く伸ばしてねじれば紐として、編み込んで強度を増すとロープとして。
- ・穴があいたガラスやび割れた窓に張り付ければ、風を防ぎ、ガラスの飛散防止に。
- ・くしゃくしゃにまるめて、食器や体を洗うスポンジ替わりに。
- ◎ごみ袋
- ・リュックの内側に袋を被せれば、簡易バケツとして。
- ・大きなごみ袋を頭と腕を出すところ

をはさみで切り取り、頭からかぶれば、簡易的な雨具に。

- ・断水になったときに、水をいれて水がめとして。
- ・新聞紙や段ボールなどを体に巻き、その上から袋をかぶれば、暖かい空気がこもります。

◎照明器具(懐中電灯・ランタン・ヘッドライト・外灯等)

- ・乾電池を使用しない手回し発電器、ソーラー発電器等がついているものは、防災袋に長い間入れておいても使用でき安心です。
- ・ランタンタイプは置いたり吊るしたりすることもできるので作業用に便利です。
- ・普段から庭や玄関にソーラーライトを付けておくと停電時の避難に役立ちます。



手回し・ソーラー充電機能のついたライト

- ・ヘッドライト
- ・トは子供や赤ちゃんを連れて夜避難する場合に、両手が空くので便利です。



両手の空くヘッドライト

地震や豪雨などの自然現象は、人間の力ではくい止めることはできませんが、災害による被害は、少しの工夫で減らすことができます。エコライフみしま第30号では、減災に繋がる環境にもやさしい工夫や取り組みについて特集しました。

廃油キャンドルの作り方

1. 鍋に廃食用油を入れて中火で(80℃くらい)熱します。
2. 油処理剤(油を固めるもの)を適量鍋に入れてよく溶かします。
※油の匂いが気になる時はアロマオイル等香りの素を入れてみよう!
※クレヨンを削って入れて溶かせば好きな色のローソクになるよ!
3. 棒に結わえたタコ糸をガラス瓶に垂らします。糸が真直ぐ瓶の底にちょうど着く長さにします。
4. 油が少し冷めたら、おたま・ろうとを使って瓶の2/3くらい入れます。
5. 30分～1時間で固まったら出来あがり。



糸は適当な長さに切ってね!

◎ご要望があれば、三島市ストップ温暖化推進員がキャンドル作りの出前講座を行います!

出前講座ご希望の方は、三島市環境政策課(電話 983・2647)までご連絡ください。

- ・防災用の簡易ライトは、パキッと手で折るだけで約10時間以上照らしてくれるスグレモノで、水が入ったペットボトルの中に入れてばランタンにもなります。
- ・環境にやさしい廃油キャンドルは緊急時の照明にもなります。



簡易ライトをペットボトルに入れたもの

◎ラジオ

【情報の収集】

- ・夜間などはイヤホンを使ってマンナーに心がけましょう。



周囲に配慮が必要な場合のエチケット

◎携帯電話・スマートフォン充電器

- ・機種に対応した充電コードと充電器を日頃から準備しておきましょう。

雨水貯留施設

天水尊や天水桶といわれる雨水貯留施設は、屋根に降った雨水を雨樋から側溝に流さずに容器へ貯める施設のことです。普段は植木の水やりなどに利用され、地震などの災害により水道が止まってしまった時には、拭き掃除や家の片づけなどに使うことも出来ます。東日本大震災で津波に遭わなかった地域で、天水尊を設置していたお宅は、貯めてあった水を沸かして、湯たんぼに入れたり、レトルト食品を温めたりすることが出来たそうです。

また、各家庭に貯留施設が増えれば、一度に側溝から河川に流れ込む水を減らすことができるため、洪水を予防する効果も期待できます。雨水を植木の水やりへ利用すると、

撒かれた水は地面に浸み込むため、地下水の涵養にもつながります。湧水復活の手段として三島ゆうすい会は平成7(1995)年より天水尊を設置しようという活動を行っています。水の節約のほか、減災、地下水涵養のため、雨樋のあるお宅は雨水貯留施設を設置をお勧めします。

なお、設置の際は補助金が交付されますので三島市水と緑の課(電話 983・2643)へお問い合わせください。



雨水貯留施設

生け垣づくり

生け垣は、地震の際にブロック塀のような倒壊の危険もなく、街に彩りと潤いを与え、空気をきれいにするほか、騒音も和らげます。

三島市は安全で住みやすく、みどり豊かな街づくりのため、生け垣用の苗木の無償配布を行っています。刈り込みや消毒など手間もかかりますが、お庭にあわせた生け垣づくりをチャレンジしてみませんか。

【配布本数】1mあたり3本以内、おおむね5m以上で60本を限度



シラカシの生け垣

表紙のクイズの答え

「ソーラークッカー」です。ソーラークッカーは、CO₂を排出しないので環境にやさしく日光さえあれば調理ができるので災害時にも便利です。



【配布時期】3月・6月・10月(申込締切りは各前月末日)
 【配布樹種】アベリア・イヌマキ・キンメツゲ・シラカシ・マサキ等13種
 【問合せ】三島市水と緑の課(電話983・2643)

災害時のトイレ対策について

災害時に自助・共助・公助という言葉をお聞きすると思いますが、自助の中でも重要となってくるのはトイレ対策です。人は平均で一日5回トイレに行きます。では、どのような準備が必要でしょうか？

◎携帯トイレの準備

付属の袋を便器にセットし、排便後は中にある吸水シートや固形剤で固めます。



携帯トイレ

※携帯トイレがない場合には以下のもので代用できます。

・ペット用砂とごみ袋

便器にごみ袋をセットし、排便後はペット用の砂を入れます。砂は匂い消しの役目をします。



ペット用の砂を入れます

・紙おむつ(パッドタイプ)とごみ袋

便器にごみ袋とおむつをセットし、使用します。※感染症予防のため塩素系消毒液やビニール手袋を用意しましょう。

ソーラークッカー

太陽の光を集め、水や食品を加熱する調理器具です。電気もガスも使わないので、CO₂の排出がなく、環境にやさしいエコグッズです。

ソーラークッカーは、災害時、ライフライン(電気・ガス)が寸断された時にも非常に役立ちます。ご要望があれば、三島市ストップ温暖化推進員がソーラークッカー実演や作製の出前講座を行いますので、ぜひ活用してください。講師料は無料です(※食材費や材料費が必要です)。

お問い合わせ先

三島市環境政策課(電話 983・2647)

カレー、目玉焼き等鍋やフライパンを使った調理が可能です。



手作りソーラークッカー



アルミ製のパラボラ型ソーラークッカー

＜旧市内地区エコリーダーの活動紹介＞

平成19年8月に活動を開始してから、去る6月の活動で100回目の活動となりました。私たちボランティアの活動にご参加、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。これからもなお一層のご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



メンバー写真

活動のモットー

ごみ
護美のためにも
地域の環境は
地域で守ろう！
地域で育てよう！

活動日時

- ・毎月第2土曜日 1.5～2時間程度
- ・4～9月 8時30分～
- ・10～3月 9時～
- ・雨天中止

～年間活動内容～

『三島市ふるさとガイドの会』の方のご協力で実施しています

西小自然観察会(5月)



名所めぐりエコウォーキング
(4・6・11・12月)



外来植物観察会(5月)



環境パトロール(7・9・1・2月)



ちゃんかけ拾い&雑貨作り(8月)



ごみに関する勉強会(10月)



野鳥観察会(3月)



皆さんも地域での環境活動に参加しませんか。お問い合わせは下記、環境政策課へ。

【編集後記】

近年、各地で多くの災害が報道されています。私達も決して他人事ではないことと思います。自分の身は自分で守り、困っている人がいたら助け合う。そんな身近な人との連携が災害時にはとても大切なことだと思います。

普段から心構えをし、知識や道具を備えることで、少しでも被害の拡大を防ぎたいものです。(あ)

編集スタッフ(市民ボランティア)

青木博・飯田喜一・岩田明彦・大村洋子・柴原俊介・鈴木祥子・羽田妙子・堀江紗代

第30号(5月・10月の年2回発行)

平成29年10月15日発行

〒411-0858 静岡県三島市中央町 5-5

三島市役所中央町別館

環境政策課内

「エコライフみしま」編集事務局

TEL:055-983-2647 FAX:055-976-8728

E-mail:kankyoku@city.mishima.shizuoka.jp

エコライフみしまは再生紙を使用して発行しています。